

既成概念から解放され 真理について学ぶことが リベラル・アーツです

東京女子大学 学長 湊 晶子

取材文／堀水潤 撮影／中岡邦夫



【学長プロフィール】1932年生まれ。東京女子大学文学部卒業。フルブライト奨学生としてホイートン大学大学院修了。ハーバード大学客員研究員、東京基督教大学名誉教授。02年より現職。NPOワールド・ビジョン・ジャパン理事。

【大学プロフィール】1918年に創立。初代学長は新渡戸稲造、学監は安井てつ。09年度より文理学部と現代文化学部を統合、再編し、新学部「現代教養学部」を設置。人文学科、国際社会学科、人間科学科、数理科学科の4学科を設ける。

本学は、英語名をTokyo Woman's Christian Universityと表記します。よく外国の方に「Womanではなく複数のWomenが正しいのでは？」と聞かれますが、間違いではありません。それは学生一人ひとりを大切にする気持ちの表れなのです。また、Christianとあることから分かるように、本学は創立以来、キリスト教精神に基づきリベラル・アーツ教育を行ってきました。

日本ではリベラル・アーツを一般教育という意味で使っていることが多いですが、本来は、さまざまな分野の学問を幅広く修得する過程で、既成概念から解放され、真理について自由に学ぶ教育のこと。単なる知識の獲得ではなく、英知を目指すものです。本学ではこの様な意味で「教養教育」という言葉を使っています。初代学長の新渡戸稲造先生の言葉に、「教育の目的は、心をリベライズ（自由に）し、エマシペイト（解放）すること」とあります。これこそ、リベラル・アーツの根源といえるでしょう。

私は1951年に本学に入学しました。それまでの軍国主義教育から一転、どんな本でも読める、英語の勉強もできるという自由と解放感に涙が止まりませんでした。大学とは既成概念から解

放され自己発見をする場です。

さて、日本の大学では「一般教養科目をベースに、いくつもの専攻が煙突型に並んでいます。専攻同士の横の繋がりはほとんどありません。そこで本学では、リベラル・アーツの充実と発展のため、これまでの2学部10学科を再編し、09年度から、1学部4学科12専攻という体制に転換します。新体制では、他学科の科目も広く学べるなど、横断的な学びを充実させます。そのなかで専門を見つけて、「専門ある教養人」を育成するのが学部教育の目標です。ちなみに、大学院では「教養ある専門人」の育成を目指しています。

本学における私の使命の二つは、リベラル・アーツに基づく女性のキャリア構築を支援することです。女性にとつてのキャリアとは、職業を指すだけではなく、出産、育児、ボランティアなどを含めた生涯における生活全体を意味します。それは、私のような年齢になっても続いていくものです。どうか、大学での4年間を土台に、女性としての自己を確立し、一生をどう生きるかについて探求してください。遠回りしても構いません。頂上はいつでも、山に登る道はいくらでもあるのです。